

# 農材ドットコムのご紹介 及び広告商品のご案内

---

# 会社概要

商号	株式会社農材ドットコム
設立日	2023年6月1日
本店所在地	東京都世田谷区若林1-18-10 6F
代表者	堀 裕
資本金	1.150万
決算月	8月
事業内容	農業資材紹介サイト「農材ドットコム」の運営
役員体制	代表取締役社長：堀 裕 取締役：鳴瀬 昌彦、中村 慎市郎

# 会社方針

## 優れた農業経営者とメーカー、商社、販売店をつなぐマーケットプレイスへ

日本は先進国の中でも食料自給率が低く、世界的な人口増加を背景とした食糧需要の急増や昨今の不安定な国際情勢によって食料の安定供給、安定確保に対する潜在的なリスクを常に抱えています。

また国内の農業においては①農業資材の高騰②農業従事者の高齢化および減少等、これまで前例の無い問題が次々と表面化しております。特に農業資材の高騰による農家への影響は深刻な状況であり、コスト削減や効率化の問題に直面しながらも解決出来ずにいる農業経営者の方々が多くございます。

一方で農業資材メーカー、商社、販売店においても市場の構造変化に対応した新たな接点創出や販路拡大に最適なデジタルマーケティングの手法が確立出来ていないと感じております。

新たなスタートを切った農材ドットコムはそういった今後の日本農業をけん引する優れた農業経営者向けに有益な情報を届けながら、日本の強い農業を取り戻したい、支えたいという思いにご賛同いただける優れたメーカーや商社、農業資材販売店向けのマーケットプレイスとしてスタートし、市場全体を活性化させる取り組みを展開してまいります。

株式会社農材ドットコム  
代表取締役社長 堀 裕

# 農材ドットコム of ビジネスモデル

農業生産者

株式会社農材ドットコム

協賛パートナー、広告主様  
(メーカー/商社/農業資材販売店)



検索流入



協賛/広告費

情報発信

接点創出/マッチング



農材知識

生産知識

リード情報

製品PR

製品情報

成功事例

問い合わせ

商談数UP

広告掲載

関連ブログ

紹介動画

特集記事

ブランディング

製品資料

資材情報を中心に大規模農家、専門農家のコミュニティを形成するマッチングプラットフォーム

# 農材ドットコムサイト概要



## サイト概要

農産物生産時に用いられる資材(生産財)を中心に、用途や販売店の情報・農業関連記事等を集約した専門サイト

創業者である鳴瀬昌彦氏が農業資材商社勤務時の経験から農業資材メーカー側のニーズを見込み立ち上げに至る

## ターゲット

大規模農業経営体  
専業農家

## 差別化/ 強み

農業資材関連の情報に強みを持ち、他の農業メディアと比較しても優位性を確立出来ている

月間PV : 22,000  
月間訪問者数 : 11,000  
主な流入経路 : 自然検索

# メディアターゲット

サイトのコンセプト：ビジネスとして拡大を目指す「本物の専門農家」向けの情報サイト

従来の農業資材紹介を軸にしながらも、

生産性向上

テクノロジー  
活用

成功している  
農業ビジネス  
の事例紹介

インフルエン  
サーとのタイ  
アップ

農業ベン  
チャーなどの  
特集

農産物の  
ブランド化

従来の農業資材紹介を軸にしながらも上記をテーマに加え、拡大路線を敷く専門農家を中心にファン層を拡大中



# サービスメニュー①：広告掲載

広告形態	契約期間	ご提供価格
レクタングル (300x250)	3ヶ月	¥90,000
レクタングル (300x120)	3ヶ月	¥60,000

月間想定imps : 20,000imps







# サービスメニュー②：タイアップ記事制作事例

## メーカー様取材事例：株式会社いけうち様 <https://www.nouzai.com/ikeuchiponics>



### 霧のいけうちとは

いけうちは産業用スプレーノズルを開発しているメーカーです。いけうしが開発した製品はこれまで、エレクトロニクスや輸機、食品、公害防止などあらゆる業界で利用されてきました。洗浄、冷却、塗布、農薬散布、冷却、除菌など、現場の課題解決・環境改善においてスプレーノズルは大きな役割を果たしています。

そんないけうしが近年、施設園芸分野に注力するため設立したのがアグロ事業部です。アグロ事業部では新しい作物栽培方法の開発、作物の栽培環境最適化、病害虫対策、といった課題解決に向けて独自の研究開発を行っています。



### IKEUCHIPonicsとは



これまで農業界には霧ノズルや二階吊り栽培ノズル、ドリップシステム、霧噴霧システムなどがありましたが、今回ご紹介する霧を用いた作物栽培方法には、これまでなかった農業生産の自動化・省力化があります。また「野菜大学」や「JAV」とは共同開発を行っているため、IKEUCHIPonicsは作物の栽培の研究といった面からも大きな期待を抱かれています。

「IKEUCHIPonicsは、次世代の水耕栽培とも言えるかもしれません。」と原塚さんは話します。  
 本誌取材には古い歴史があります。これまでの水耕栽培は、直根類を水につける、もしくはシャワーをかけてという栽培でした。今までの栽培がシャワーだったなら、IKEUCHIPonicsはミストツキワナです。霧で根を包み込み、水滴が葉や茎にホタタツきません。また植物の根でも根の周りから給水しようとして、細かい根毛を河山発生するという変化が起きます。



「根は霧中に浮いており、畑や水たまりのない栽培システムなので、病害のON/OFFにより植物に必要な水分や養分の投入量をタイマウでなくばリアルタイムに変化させることができ、作物を自動的にストレス・ノンストレスの状態を自由に一瞬で切り替えることが可能です。」

原塚さんは、「これまでの水耕栽培で課題となっていた問題を解決できる」と次のように語ります。  
 「例えば、高熱のトマトを育てる場合、水分を奪い取られてしまいます。もちろん、生育可能な水分量を下回ってしまうとトマトは枯れてしまいますが、IKEUCHIPonicsでは根の周囲の水分量を瞬間に変化させることができるため、極端な水を切ったり、生育できないような栽培も可能になります。」

またIKEUCHIPonicsには噴霧コントロールを自動化するレシピを頼んだ制御盤を利用しており、これにより従来からのノウハウを持ったトマト農家だけでなく、新しくトマト栽培に参入する企業でも一作品から高収穫を実現することが可能になっています。

「私たちが開発した霧の技術はどの企業にも複製できません。私たちが元々ノズルメーカーだからです。もし、他の企業がこの霧の技術を複製できたとしても、安ささせることは難しいでしょう。もちろん、ノズルは商品として販売しているもので、どんな技術なのかを想像することはできます。しかし私たちにこれはこれまでの多くの実績や経験があります。そのノウハウを活かせるのは、いけうちだけです。」  
 これまでの水耕栽培は、霧は水を送っている状態で意思している状態です。他に、水のシャワーやワックスマシなどを使った栽培もあり、それぞれ異なる特徴があります。  
 「IKEUCHIPonicsとこれまでの水耕栽培には大きな違いがあります。それは霧の粒子径です。特殊なノズルを利用して霧を平均粒子径約30μm以下の微細な霧状にして噴射・充填させることができます。」と原塚さんは話します。

「水耕栽培の中では一番後発にできた製品なので、どんなものがあるか、どんな特徴があるのか、デメリットといった未踏の部分もあります。これらをつつと調べていきたいと考えています。」と原塚さんは話します。

### IKEUCHIPonicsのこれまでとこれから

IKEUCHIPonicsを使った栽培に関しては、まだ実需の導入事例は少ないながら、農家や企業からの問い合わせが増えているそうです。  
 「消費者、農業者が買わないことや、高価格・高GABAのような付加価値の高い栽培が可能になることや、特産のニーズが広がってきたのだと思う。」と原塚さんは語ります。  
 初めて製品を見た方に、その良さを伝えることは簡単ではないのです。もちろんトマト栽培をしている農家の方にも利用していただきたいのですが、どちらの方とえば、これまで農業従事者がい企業の方が入りやすいと思われています。  
 また一方で、期間内に売り上げた商品は、まったくの手作り状態からスタートだったところでもあります。これまで霧を使った水耕栽培の農業を開発した実績や経験のある大手や企業はあります。  
 「どのような霧や粒子、または霧の量などに苦労しました。どのようなノズルを利用するか、どのような配管がいかに苦労したりしています。」  
 これまで利用されていた水耕栽培であれば、そこまで深く考えることはなかったと話します。IKEUCHIPonics開発まで15年かから、ようやくこの形にも関わって5年経つのだそうです。

## メーカー様取材事例：みかど化工株式会社様 <https://www.nouzai.com/mikadokakou>



【製品・種類・用途別】

用途別	ビニルハウス		トンネルハウス		施設用ハウス		
	標準	プレアック	標準	プレアック	標準	プレアック	プレアック
増設	○	○	○	○	○	○	○
撤去	○	○	○	○	○	○	○
撤去後再設置	○	○	○	○	○	○	○

【仕様・規格】

規格	仕様
フィルムタイプ	※標準規格以外の規格もご対応可能(※別途お問い合わせください)
寸法	※標準規格以外の寸法もご対応可能(※別途お問い合わせください)
カラー	※標準規格以外のカラーもご対応可能(※別途お問い合わせください)
設置方法	※標準規格以外の設置方法もご対応可能(※別途お問い合わせください)

### 太陽と大地、作物の力を發揮できる製品を開発

「私たちは農業の世界を、農家がいつでもどこでも簡単に利用できる多様な製品を開発して、農家の生産活動をサポートしてまいります。」  
 三にマックス 三にモマックス  
 三にエックス 三にリニマックス  
 そんな製品ができることをめざしながら、太陽と大地の力を最大限に引き出す、かたちから見たところでは、誰もが想像しきれないような多様な製品を開発し、販売しています。  
 (みかど化工株式会社より)



発芽補助二階フィルムは、グリーンハウスの温度が上がりやすいことや、黒マルチの発芽補助効果の面に対応することを目的に開発されました。みかど化工では「農家の考えや手間を考えた」と商品と提案しています。  
 マルチフィルムは、発生を避けることで土壌中の湿度を確保し、土壌中の湿度を整えることで、作物の発芽率を高め生育を助けます。ところが、近年の気候に伴い、発芽・成長も上がりやすくなることで、発芽前から生育初期にある作物が枯死することが多くなっていました。  
 マルチフィルムはフィルム色で太陽光を吸収したり反射したりしますが、吸収する熱量を同時に反射したりすることも可能です。たとえば、日光を遮断することで地温を上げやすくするグリーン系フィルムは、日光がいない時期には地温が上がりにくいという特徴がありますが、土色に近いチョコフィルムは、おだやかに地温を上げながら、さらに保湿度で根に近い環境を確保することができるのが特徴です。  
 色別マルチ検証結果  
 温度を確保しながら高湿に保てるマルチを選択

地温を上げ過ぎず、もうひとつの環境を整えたい。最も効果的な環境を一つにすることで、発芽率を高め、生育を均一にできるようにチョコマルチは、植物の大きさも調節しやすくなり収穫量も上がるので、徐々にファンが広がってきているとのこと。

育苗の現場で磨かれましたみかど化工の観察力 ～機能を重ね、かゆいところに手を届けるものづくり

チョコはもちろん、透明からグリーン、黒、白と色のバリエーションがあり、多種多様なマルチフィルムを提供しているみかど化工。同社の最新のヒット商品が、1977年に発売された自家開発の「チョコ」フィルム。光の透過率を調整する機能、1枚で2重の機能をあわせ持つことができた従来のマルチフィルムに比べ、約2倍の価格差を解消したと伺えます。



新素材・新技術で良質なモノを最大限に高める。より地温対策効果が高まりました。高湿度での育苗（発芽・成長・収穫）にも対応しています。  
 新素材を開発。農家がこれまで以上に簡単に利用できるマルチを開発し、ほかの製品にも展開しています。  
 1989年に発売された、赤黒を兼ね備える発芽補助フィルム「ブラックウッド」シリーズ。地温を高め発芽を促す、サマーグリーンフィルムと違い、赤黒を兼ね備えたフィルム。加えて、さまざまな粒径・形状のビーズに合わせた、穴開け加工を2重から3重に追加し、発芽初期で発生しやすい病気は、防菌剤を散布しやすくなります。  
 福岡県は、「私たちはマルチフィルム業界でトップレベルに達してしまっていますが、プラスチックで農業の未来のためにさらに貢献できるような製品を開発し、ファンに届くまで多くの企業と提携しています」と語ります。





# サービスメニュー②：タイアップ記事制作事例

## 農家様取材事例：カンジユクファーム様

**「植物の力を引き出し、効率よい経営を」**  
 株式会社カンジユクファーム  
 代表取締役  
 生駒道之さん  
 カンジユクファームは、フルーツ王国ゆなしの魅力を最大限に引き出す  
 おいしいカンピーです。  
 さくらんぼ、桃、さくらんぼ、キウイ、すもも、あんぽ柿な  
 ど山梨県の特産フルーツをご提供いたします。

### カンジユクファームの成り立ち



生駒さんは、農業を志して山梨県に移住。野菜の生産法人に勤務した  
 後、カンジユクファームの立ち上げに参画。当時専業農家の経験がな  
 かった生駒さんは、市内で2haの果樹販売を行うM.A.Orchardの  
 販売代理に参事。業務形態と経営のノウハウを学びながら2016（平  
 成28）年、カンジユクファームの経営を本格的にスタートさせまし  
 た。



山梨県は江戸時代から、生産される果物は「甲州八景果」と呼ぶほどの産地  
 で、今日は桃、ぶどう、すももそれぞれ生産量、栽培面積ともに全国1  
 位を誇る果樹王国です。

カンジユクファームがある山梨県南アルプス市は、南アルプス山脈に位置す  
 る美しい自然に囲まれた地域です。主峰北岳を頂点とした山あいの地域と、  
 富士川が生まれた山奥地からなる農業に最適な形で、古くは耕作をなじ  
 んだ水耕や土壌、農などが栽培されていたといえます。

南アルプス市の地域では、直接地の気候のよさに加え、夏の高温のさと  
 湿度の高さ、加えて冬の間寒い寒さという気候特有の肉質と食感を活か  
 し、他の山梨県内の産物と同様に、昭和40年代後半から果樹栽培の拡大が一  
 気に進みました。現在ではさくらんぼ、桃、すもも、ぶどう、桃（あんぽ餅  
 に加工）、キウイフルーツなどが作られています。

### カンジユクファームの経営 樹と地力、個性を活かした「無理のない効率化」

山梨県内は、ぶどうの産地である甲府県や静岡県では、桃やぶどうを専業で営む農家は多い傾向が見られますが、南アルプス市地域では、  
 複数の果樹を栽培することで、自然の恵みを受けながら経営スタイルが異なります。

果樹の個性を活かすカンジユクファームでは、農家の経験豊富な知識を活かして栽培の個性を活かすこと（個性を活かす）や  
 キウイフルーツ、早稲作でのぶどう栽培することで、年間収益の安定、品質で市場競争を有利に進めています。

なお、カンジユクファームの主な収益構成は以下の通りです。

桃	6割程度、6月下旬～8月頃まで
ぶどう	8割程度9月上旬～10月下旬頃まで
あんぽ柿	10月中旬～11月
キウイ	12月上旬～12月

別の収益は多く、全量でみるとぶどうはほぼ1年を通しての収穫と、果実から産出する加工品による収益も期待できるものと見えています。

### 作業効率をアップさせ、8割の収量でも全体の生産量がカバー

カンジユクファームの取り組みは、もともとでもスタッフが作業の効率を上げること、そして作業の効率化を図ることです。業務  
 量の削減に期待がかかることで生産効率の向上が図られると見られており、中でも大規模な施設を施設に活用することによって効率化  
 しました。

「自分も農業従事者で、現場を体験している感覚上、効率化を求めています。桃トラップで作業するだけでなく、ほじり機  
 なども取り入れました。市内でも農業従事者が多いのは得意（甲州南、甲州西、山梨南など）ぶどう、キウイ（山梨県南アルプス）等  
 知らず、南アルプスは農業従事者が少ないです。南アルプスは設備が揃っていて、農業される方が多いので、新技術導入でも  
 けずり機ではあると思いますが。」

上記は、現場に出るに比べて設備の投資は行わずとも、ここで、カンジユクファームでは、「現場も活用すること」を目的とし、エリア  
 単位でも機械の活用を進めています。販売担当のスタッフが農機具を購入し、自営農家の父や兄弟、友人に活用していただ  
 けているそうです。

もちろん、上記はたいはりではありません。農機具を取り、大切に使うことで、生駒さんが農業法人で取戻した、「現場を知る経験に  
 なるようなもの」とも感じられたい経験が積まれていると語ります。農業への熱意と知恵の両方を大切にすること、現場を知る経験に  
 なっているとのこと。

しかし、このような大規模で経営を行っているのは、例外的なケースです。しかも少人数での経営です。生駒さんは、「無理のない範囲での農業  
 化」を経営のポリシーに掲げます。

例えば桃。カンジユクファームでは、桃の木の高さを、従来の3分の2程度  
 の高さにしていきます。



「枝の数を減らすことで効率化が進みます」と生駒さんはおっしゃ  
 ります。従来の樹高が2mほど、剪定を減らすことで労働力不足の克服を  
 実現させたいと考えています。ですが、低木の樹は収穫量が減る懸念  
 があります。1日（約1ha）も果実量は上り下りするのでは大変なところ  
 が、克服しています。

「2mほどを克服することも難しくても、3割の収穫でも、0.5tで  
 採れるならそれで済むようにしています」と生駒さん。しかも十分な  
 価格があるからこそ、最終的な結果として、作業工数の削減を見ても  
 総合的に有利な経営を実現しています。

低木の樹のメリットは、作業性の向上だけでなくあります。カンジ  
 ュクファームでは、機械の作業効率を向上させています。また、収穫機  
 を使ったほうが収穫が早い。収穫機を使うことで、収穫作業の効率を  
 高めることも実現されています。また、収穫機を使うことで、収穫  
 作業の負担を減らすことで、より多くの収穫が期待できるそうです。

また、カンジユクファームでは、農機具の活用もできています。これは、田舎、田舎から農業をする  
 現場の課題を解決して、「農家の負担を減らす」というメリットがあります。

このようにカンジユクファームでは、機械の活用やトラップ、コストを削減することを重視する。賢明な経営を実現しています。

### 資材との関わり 導入するシナリオや得られるベネフィットを考える習慣づけ

さまざまな業務を続けるカンジユクファームでは、設備と農機具をどのように活用して、コストを削減し、効率化を進めたいと考えています。設備を効率よく活用すること、コストを削減すること、現場を知る経験に  
 なっているとのこと。

# サービスメニュー③：農材メーカー様DX支援パッケージ

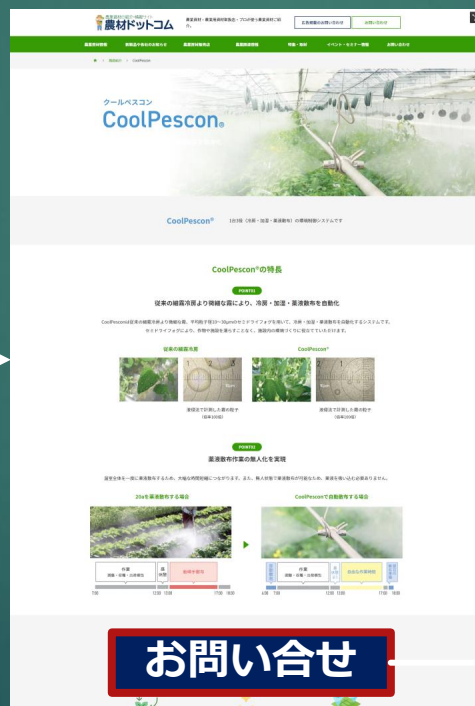
ページ制作から広告による集客、リード獲得まで一気通貫で支援

興味関心度の高い  
お客様を集客

農材ドットコム内に制作した  
貴社特設ページに集客

お客様情報を取得、貴社にご納品

Google  
Yahoo!  
検索連動型広告



お問い合わせフォーム

※製品カタログや資料送付、製品価格や在庫等のご質問にはお答えできません。  
「よくあるご質問」をご参考下さい。

姓  名

メールアドレス

電話番号  郵便番号

都道府県/地域  市区町村

それ以降の住所

お問い合わせ内容

## 農材メーカー様支援パッケージ

パッケージ内容：ページ制作/広告費用

納品物：広告レポート

問い合わせお客様データ

料金：50万円～ 一度ご相談ください

# サービスメニュー④：製品ページ登録サービス

## 農材ドットコム内に貴社製品情報を掲載

The image shows a two-step process. On the left is the '製品情報登録フォーム' (Product Information Registration Form) with fields for product name, description, and company details. On the right is the resulting '製品情報ページ' (Product Information Page) on the '農材ドットコム' website, featuring a large orange-bordered box around the product details. An orange arrow indicates the flow from the form to the page.

製品情報  
登録フォーム  
で情報入力

製品情報  
ページを制作

**無料掲載キャンペーン（先着20製品）**

**費用：今なら製品情報登録が0円！！**

**【通常ご提供価格】**

**製品情報ページ制作**

費用：1製品：20,000円/

10製品以上：15,000円（1製品あたり）

※費用を初月に一括でご請求いたします

※表示回数などのレポート提出は行えません



# サービスメニュー⑤：パートナープログラム

農業ドットコムのリソースを活用し、貴社のビジネス支援を行います  
費用は一度、ご相談ください。お見積りいたします。

## プログラム内容

農材ドットコム内での企業紹介ページの制作支援

農材ドットコム内での個別商品ページの制作（2次利用可）

ダウンロード資料による見込み顧客情報の取得及び提供

ダウンロード資料作成支援（2次利用可）

共同Webセミナーの開催

広告出稿支援（検索連動型広告、SNS広告など）

マンスリーWebレポート提供